

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3123396号
(U3123396)

(45) 発行日 平成18年7月20日(2006.7.20)

(24) 登録日 平成18年6月21日(2006.6.21)

(51) Int. Cl.

F I

G 0 9 F 3/03 (2006.01)

G 0 9 F 3/03 E

G 0 9 F 3/02 (2006.01)

G 0 9 F 3/02 U

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2006-3323 (U2006-3323)

(22) 出願日 平成18年5月1日(2006.5.1)

(73) 実用新案権者 504235034

富士フイルムロジスティックス株式会社
東京都目黒区上目黒二丁目1番1号

(74) 代理人 100058479

弁理士 鈴江 武彦

(74) 代理人 100091351

弁理士 河野 哲

(74) 代理人 100088683

弁理士 中村 誠

(74) 代理人 100108855

弁理士 蔵田 昌俊

(74) 代理人 100075672

弁理士 峰 隆司

(74) 代理人 100109830

弁理士 福原 淑弘

最終頁に続く

(54) 【考案の名称】セキュリティラベル

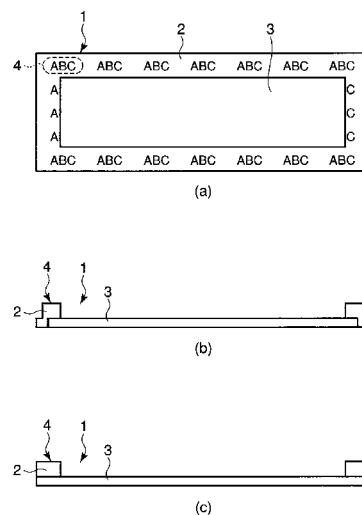
(57) 【要約】

【課題】有機溶剤系、第二、三石油類系の溶剤を用いたラベル剥がしに対しても反応可能として開封確認を万全なものとし、セキュリティを担保すること。

【解決手段】このセキュリティラベル1は、剥離すると非転写文字が浮き上がる構成を有するポリエステルフィルム3と、当該ポリエステルフィルム3の外縁部に配設され、有機溶剤系、第三石油系の溶剤に所定色をもって反応し表層剥離を起こす特殊紙2と、この特殊紙2の表面に特殊インキで印字された所定のマーク部4と、で構成されている。この特殊インキは、第二石油類系の溶剤に触れると滲みを起こすようになっている。

【選択図】 図1

図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

剥離すると非転写文字が浮き上がる構成を有するポリエステルフィルムと、
上記ポリエステルフィルムの外縁部に配設され、有機溶剤系、第三石油系の溶剤に所定色をもって反応し表層剥離を起こす特殊紙と、

この特殊紙の表面に特殊インキで印字された所定のマーク部と、
を有するセキュリティラベル。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

10

本考案は、開封確認を可能とするセキュリティラベルに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、例えばパチンコ等の遊戯具では、当該パチンコ機を不正に開き、内部構造を改変するという不正行為が行われているが、このような不正行為、つまり機械の不正な開閉を確認するための種々の技術が提案されている。また、秘密事項を含む書類等を管理する封筒等については、その開封確認を行うためのセキュリティラベルについて種々の技術が提案されている。例えば、特許文献 1 では、封印シール部を剥離の有無を確認可能とした貴重品配送用シールが開示されている。

【特許文献 1】特開 2006-051763 号公報

20

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

しかしながら、特許文献 1 では、有機溶剤系、第二、三石油類系の溶剤を用いたラベル剥がしを確認する為の技術的事項については何等開示も示唆もされていない。

【0004】

本考案の目的とするところは、有機溶剤系、第二、三石油類系の溶剤を用いたラベル剥がしに対しても反応可能とし、開封確認を万全なものとし、ひいてはセキュリティを担保することが可能なセキュリティラベルを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

30

【0005】

本考案の一態様では、剥離すると非転写文字が浮き上がる構成を有するポリエステルフィルムと、上記ポリエステルフィルムの外縁部に配設され、有機溶剤系、第三石油系の溶剤に所定色をもって反応し表層剥離を起こす特殊紙と、この特殊紙の表面に特殊インキで印字された所定のマーク部と、を有するセキュリティラベルが提供される。

【考案の効果】

【0006】

本考案によれば、有機溶剤系、第二、三石油類系の溶剤を用いたラベル剥がしに対しても反応可能とし、開封確認を万全としたセキュリティラベルを提供することができる。

【考案を実施するための最良の形態】

40

【0007】

以下、添付図面を参照して、本考案の実施の形態について説明する。

【0008】

図 1 には本考案の一実施の形態に係るセキュリティラベルの構成を示す図である。

【0009】

すなわち、図 1 (a) は、この実施の形態に係るセキュリティラベル 1 を上方から見た平面図であり、図 1 (b) は当該セキュリティラベル 1 の一部断面図であり、図 1 (c) は当該セキュリティラベル 1 の改良例の一部断面図である。

【0010】

同図に示されるように、このセキュリティラベル 1 は、当該セキュリティラベル 1 を剥

50

離すると非転写文字が浮き上がる構成を有するポリエステルフィルム3と、当該ポリエステルフィルム3の外縁部に配設され、有機溶剤系、第三石油系の溶剤に所定色（例えば赤色）をもって反応し表層剥離を起こす特殊紙2と、この特殊紙2の表面に特殊インキで印字された所定のマーク部材4（この例では、「A B C」）と、で構成されている。この特殊インキは、第二石油類系の溶剤に触れると滲みを起こすようになっている。本実施の形態では、このような3つの部材により、開封確認を万全なものとしている。

【0011】

ポリエステルフィルム3は、所定の転写文字が印字された層の上に透明な層が積層された構成となっており、底面は接着面となっている。特殊紙2としては、例えば特開2001-7907号公報に開示されている構造を採用することができる。この場合、接着剤の上に水性インク層が積層され、更に当該水性インク層の上に確認部が積層された構成となる。但し、これには限定されないことは勿論である。

10

【0012】

ここで、上記特殊紙2のポリエステルフィルム3への配設については、図1（b）に示されるように当該特殊紙2の底面の一部がポリエステルフィルム3に覆い被さるような形での貼付や、図1（c）に示されるように、特殊紙2の底面の全体がポリエステルフィルム3に貼付されるような形が考えられるが、これらに限定されるものではない。

【0013】

次に、図2を参照して、本考案の一実施の形態に係るセキュリティラベル1の開封確認の効果を説明する。この図2に示されるように、セキュリティラベル1は、物理的な力により当該ラベル1を剥離した場合には、非転写文字が浮き上がるため、開封の確認が可能となる（（1）開封反応）。また、有機溶剤系、第三石油類系の溶剤に対しては色変化を起こすことから、表層剥離を確認することもできる（（2）溶剤（ラベル剥がし）その1）。また、第二石油系の溶剤に特殊インキが触れると滲みを生じるので、そのような溶剤を用いたラベル剥がしの行為を確認することも可能である（（3）溶剤（ラベル剥がし）その2）。

20

【0014】

以上、本考案の一実施の形態について説明したが、本考案はこれに限定されることなくその趣旨を逸脱しない範囲で種々の改良・変更が可能であることは勿論である。

【0015】

例えば、特殊紙のポリエステルフィルムへの配設は、前述した2つの例に限定されることなく、例えばポリエステルフィルムの外縁部の一部に設けるようにしてもよい。

30

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】（a）は本考案の一実施の形態に係るセキュリティラベル1を上方から見た平面図であり、（b）は当該セキュリティラベル1の一部断面図であり、（c）は当該セキュリティラベル1の改良例の一部断面図である。

【図2】本考案の一実施の形態に係るセキュリティラベルの使用状況を説明するための概念図である。

【符号の説明】

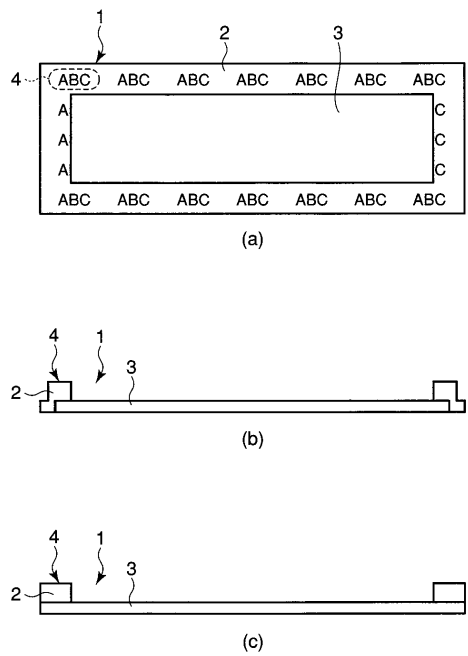
40

【0017】

1…セキュリティラベル、2…特殊紙、3…ポリエステルフィルム、4…マーク。

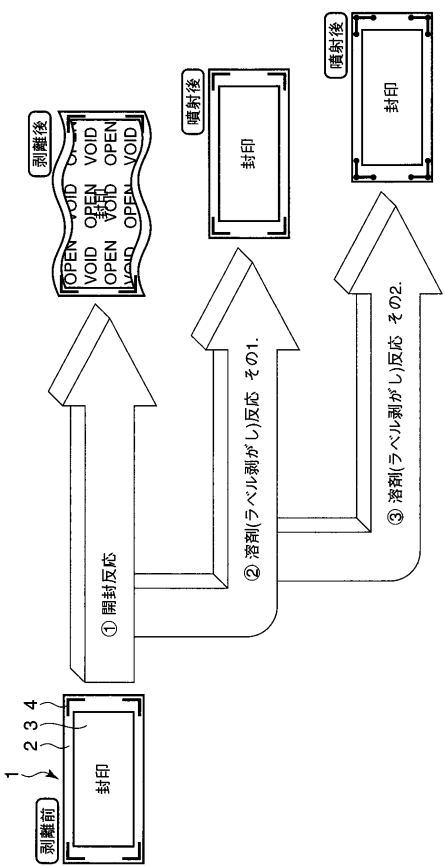
【図 1】

図 1



【図 2】

図 2



フロントページの続き

(74)代理人 100084618

弁理士 村松 貞男

(74)代理人 100092196

弁理士 橋本 良郎

(72)考案者 広瀬 淳一

東京都目黒区上目黒二丁目1番1号 中目黒ゲートタウンタワー15F 富士フィルムロジスティ
ックス株式会社内

(72)考案者 齋藤 賢一

神奈川県相模原市大島678-7 有限会社日本特殊ラベル内